

編集室から

来春、金沢市弥生ある金沢大学の男子寮・北溟寮が取り壊され廃寮になるため、卒業生最後の「卒業祭」が、先月上旬に行われました。

北溟寮では、卒業年次ではなく、入学（入寮）年次で同級が区別されていました。僕が在寮していたのは昭和55年から60年の5年間。四年制のはずなのに5年とは、つまり1年の留年があったからで、寮生の中には相当年次居すわっていた豪傑もいました。

この日は珍しく物凄い快晴（写真上）。

全国から集結した元寮生は、男子に限らず、お隣の女子寮・白梅寮のOG連も駆けつけています。自分の知らない遥か前の大先輩から、これまた知らない大後輩たちまで、総勢何人だったか、判らないほどの大勢で、かつて毎夜朝方まで寮歌を仕込まれた旧食堂に。

懐かしい面々。あってスグに誰と判る変わらないヤツから、（禿げ上がった自分のように）一瞬誰か判らなくなっているヤツまで、積年の思い出が溢れ、體が今でも覚えている寮歌の数々を共に熱唱。談笑は尽きませんでした。

途中、それぞれの回生（入寮年次）での記念写真も撮り（写真下は、今月号寄稿の井垣君たち昭和57年組）再会を喜び合っていました。大學を卒業しても、寮を卒業するのにしばらく時間（精神的に）を要した自分にとって、廃寮は大きな節目でした。

今後も、この栄えある北溟卒業生として鋭意前進しつづける者でありたいと思います。

（は）



Chintara

本ニュースにレギュラー執筆していただいている川島さんが「能登の夜市」の姉妹店を開店されました。

上京された際、ご利用になってみてください。

もちろん、川島さんご自身もお店に立っておられます。

日本酒バルChintara

03-6427-8183

17:00～24:00

金曜17:00～28:00日曜祝休

渋谷区道玄坂2-19-3

ライオンズマンション道玄坂1階

このニュースは、計画に携わる若手の技術者を育てることを目的に発行を始めました。

その後、計画という仕事の内容や、普段、計画マンがどのようなことを考えているのかなどに触れて、少しでも業界を知っていただければと考えて編集しています。

2016/12

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

〒920-1167

石川県金沢市もりの里1-149-302

電話 076-233-7217

Fax 076-233-7375

Email usric@neting.or.jp

2016/12

(株)アスリック

<http://www.neting.or.jp/usric>

師 走



白山比咩神社（白山市）にて
by hama

寄稿 『体と心の生活習慣病（その一）』

麻田総合病院・糖尿病センター 井垣 俊郎

金沢大学北潟寮で濱さんの二年後輩だった、井垣と申します。今は郷里の四国に戻って、糖尿病の専門医をしています。廃寮がきっかけで、ほぼ三十年ぶりに濱さんにお会いして、思うところあって投稿させていただくことにしました。

糖尿病は、四十歳以上の三人に一人、七十歳を越えると二人に一人近くという勢いで増えています。大学を昭和六十三年に卒業して、内科全般を研修した後に専門として選んだ時には、ここまでメジャーな疾患になるとは想像もしていませんでした。

いまや高血圧も高脂血症も胃潰瘍も、そして直近ではC型肝炎までが、内服薬で完治してしまふ時代になりました。抗ガン剤の進歩もめざましく、完全にガンを制圧することは難しくても、長く引分け状態を保つことが可能になってきています（それは医療費高騰の一因でもあるのですが）。

ところが糖尿病には、そうした特効薬はありません。理由は、おいおい話させていただきます。ですが、どんな手を使ってでも良いから糖尿病を防ぎたい、と言っているのであれば話は簡単です。江戸

時代の日本には糖尿病など皆無でした。たかだか数百年でヒトの遺伝子はほとんど変わりません。江戸時代の生活に戻すことができれば、現代でも糖尿病患者は激減するはずです。

特効薬は無い、でも江戸時代にも戻れない、その狭間で患者さんと共に何が出来るのかを模索する日々を重ねて四半世紀になりました。

では、糖尿病になることで何が困るのでしょうか。以前は、目が見えなくなる、腎臓が悪くなって透析になる、足先手先の痺れや痛みから壊疽で切断に至る、という網膜症・腎症・神経障害が三大合併症とよばれていました。ですが医学の進歩によって、三大合併症の比重は急速に低下してきています。

第一回はこのあたりまでにして、次回以降は糖尿病と生活習慣病の関係、そして生活習慣病が我々の体と心と社会に何をもたらすかについて話を進めようと思っています。どなたかに少しでも興味を持っていただければ幸いです。



【プロフィール】
（いがき としお）金沢大学医学部卒・日本内科学会認定内科医・糖尿病学会専門医
現在、香川県丸亀市にある麻田総合病院・糖尿病センター長

濱のひばせ 『ひんよこ』

「つんとも、すんとも言わない」という。ところがこの「うんすん」の意味が全く通じない。ネットの語源辞典にはそれらしき説が記載されているが、納得できない。永年頭の隅から離れないでいた疑問が、ひよんなことから氷解することになった。

総務省が所管し公益団体によって振興が図られている草の根活動に「地域づくり」活動がある。

伝統芸能・工芸・方言などの地域文化、史跡・歴史から現代の芸術を始め、「地域の宝」を発掘し、それを核に地域の独自性を磨き、内外にアピールしていく中から、域外との交流を産み、さらに住民の誇り・地域経済循環の再生を図っていく実に幅広い分野に跨るさまざまな切口の活動が、全国で展開されている。

その活動を紹介し、地域間交流を深める中で、相互にノウハウを共有・拡散する場として「全国地域づくり団体研修交流会」が、毎年各道府県持ち回りで開催されている。昨年まで、福井・三重・石川県と中部で続き、今年は熊本県での大会であった。

実は、熊本大会は五年前に一度、開催の準備がなされていた。そこに発生した東日本大震災。主催地では、苦渋の決断により開催が断念されたが、その再開を待っていた。その二度目の参加募集開始を目前にした四月、今度は熊本を地震が襲った。本震レベルの揺れが二度襲うという前代未聞の事態の中、それでも熊本は全国大会の実施を決める。火の国・熊本の勇氣と決心に、こちらも地域づくり魂が震えた。

熊本大会の分科会は人吉地域に決めていた。全国協議

会幹事もお勤めの本田節さんに逢いに行くためである。

初めて節さんにお目にかかった時、そのお志と活動に深く感動し、石川でのご講演をお願いすべく、節さんの活動拠点である人吉に単身初めて伺った。電話や、メール・御手紙での依頼では断られてしまふかも知れないからだ。

そんな意を察しられてか講演は快諾して頂くも「濱ちゃん！三回来んと、親戚つきあいはせんとよ」と温かいお言葉を頂いた。何とか理由をみつけて二度目は直ぐに伺えた。しかし、三回目は難渋していたものの、数年を経てようやく「これで親戚やけんね」のお許しが頂けた。

今回も、宿は農家民宿の古時香（ことか）さん。初回に節さんからご紹介頂いて以来、全てこちらだ。そして毎回、呑み語りは深夜に及ぶ。宿を切り盛りしてくれる深水さんご夫妻には、本当にお世話になっている。有難い。

お母さん方による郷土食での交流会の翌日、「ウンスンカルタ」の歴史と遊び方を体験した。十六世紀にポルトガル船員がもたらしたカルタを元に元禄年間に作られたウンスンカルタは、全国で大流行。しかし、やがて幕府に禁じられて廃れた。それが何故か、人吉にだけ遺されていたという。求語で「ウン」は一、「スン」は最高を意味する。このカルタで遊興中、手に行き詰まると、ウンともスンともいえなくなってしまうことが、先の由来の一説と聞いて、ようやく積年の問いが取れた。

人吉は、北陸から遠い。保存会の方々とウンスンカルタをやり、気に入った球磨焼酎を味わいに、古時香さんに泊まりに、節さんと仲間の方々に逢いに、距離を越えて是非また伺いたい。出逢いをご縁に深めるには、紡ぎ、緬い、そして結わえる時が要る。

三浦九段の不正疑惑について、世間では“将棋のプロ、スマホカンニングで処分”という終局図が独り歩きしている。しかし今の形勢はむしろ“同九段が黒であるという証拠はなく、日本将棋連盟のやり過ぎではないか”という流れ。劣勢側の形作りに関する予想がネット掲示板では賑やかな。

この騒動に関する第三者委員会の初会合が11月4日に開催された。それ以降（11月末現在）、公式な発表や関係者の動きはピタリと止まっており、どのような終局図が待っているかはまだわからない。そしてその結末の影響は、三浦九段、連盟、関係者のそれぞれに収まるとも思えない。

さて、三浦九段の指し手の、将棋ソフト“技巧”との一致率が話題となっている。同じ局面で、人間がAIと同じ手を指すことが“一致”、一局の棋譜の全部あるいは特定の部分における一致の割合が“一致率”と定義されている。

渡辺竜王は“三浦九段の一致率は90%を超え不自然である”として、連盟に調査を求めた。同時に、将棋ソフトに詳しい千田五段は、三浦九段の数局における一致率を公開（10/31削除）。黒に思えるような具体的な内容であった。

一方で、一致率の統計的有意性に疑問があること、一致率自体は疑う根拠にはなるが黒の証拠にはなりえないこと、などが指摘されている。棋譜をデジタルに捉え、照合を繰り返す作業が、白黒の両派において繰り返されている。

ところで、不正の有無とは関係なく、一連の騒動を通じて突きつけられた不都合な真実が一つある。“評価関数は将棋の名人の読みを超えた”ということだ。それは、次のようなことが明確に示されたからに他ならない。

- ・スマホでカンニングするだけで強くなるとトップ棋士が確信していること
- ・プロの公式対局を、別室で対局者以外のプロが将棋ソフトを用いながら検討する光景が日常化していること
- ・“AIが人間レベルの手を指した”のではなく“人間がAIのような手を指した”ことに、プロは驚くということ
- ・プロは不正を犯してまでも勝ちたいものとトップ棋士が考えていること

不都合な真実は、プロの将棋界の存在すら左右しかねないことを暗示している。AIに超えられたこと、および、超えられていることを自覚していることが白日の下に晒され、自らの存在価値を激しく問われているのだ。

それに対する答えを、プロの一人が騒動後にtweetしている。「プロ棋士が、あるときにはその人生を賭して、またあるときにはその魂のすべてを刻みつけて、己の頭脳のほかは一切頼る余地なく、心血を注ぎ真剣勝負の末に紡ぎだしてきたのが『棋譜』です。わたくしはこれまでも、これからも、そう信じております。」

バラエティ番組で愉快的姿を晒しているひふみん（加藤一二三九段）、なかなかいかしている。

長年の地域振興の最大のテーマのひとつと断言していい『商店街の活性化』ですが現在も日本の各地では、“シャッター街化”が進んでいます。この東京においても、少し郊外に行けば地方都市と同様に、シャッターを閉めたまま次のテナントも入っていない商店街が数多く存在します。あの日本一大きな商店街と言われる品川区・武蔵小山のアーケード街ですから空き店舗が目立つこの頃です。その原因して語られるのは

- ・大型商業施設の台頭
 - ・モータリゼーションの発達による商業施設の郊外化
 - ・後継者不足や商圈内における人口縮小。つまり過疎化
- と言われます。これが本当に原因だとすると日本の構造的な問題であるため手の打ちようがないのでは？と誤ってしまいます。

では本当に商店街の衰退は構造的な問題なのでしょうか？それであれば、

- ・すでに顕在化している高齢化問題
- ・車離れする若年層世代、
- ・大型スーパー、GMSの苦戦

といった事実を見ると本来住宅地に近接し、顧客ニーズを肌で感じられ、小回りが利き、細かなサービス提供が可能な商店街は実は時代のニーズに即した商いのモデルではないでしょうか？また個店単位でも駅前一等地で店前通行量もある立地で商売できるということは、非常にアドバンテージがあるのです。こんな好条件で儲からないというのは理解に苦しむといっても過言ではありません。ですが、実際に持続可能性のある成功を遂げている商店街はほとんどありません。中小企業庁などの役所が成功事例集として紹介しているところは現在見る影もありません。結局、奇策のような取組は持続しないし、構造的な問題ではなく個々の店舗がイノベーションされていないということであり、翻って言えば組合形式で集合体となっている商店街(それを運営する商店会)という組織の問題でもあるのです。

最近気になるニュースが新聞に出ていました。『東京の戸越銀座い商店街が福井県坂井市のアンテナショップを誘致』『東京の中板橋の商店街が富山県魚津市のアンテナショップを誘致』というものです。

この店は飲食店と物販が併設し、獲れたての魚や野菜を販売するというモデルです。アンテナショップ自体は新しい取り組みではないのですが旧来の県単位の自治体が銀座に大きな拠点を構えてドカーンというものではなく、基礎自治体の単位で、商店街を構成する一メンバーとして商いを行うというものです。

大手チェーンを誘致するような金太郎飴的な街づくりではない消費の都市圏と生産の地方圏という需給ニーズをダイレクトに結ぶもの
旧来のアンテナショップが本来持つ都市圏での商社機能が果たされていないため
 という点で誘致に尽力された商店街の方々のアプローチは面白いと考えております。

次号では、商店街が賑わうためのソリューションは存在するのか？またそれは何か？それを具現化するための条件？について私なりの考えを述べたいと思います。

『富士の国から ~大魔神のたび~』熊本そしてオレンジ食堂の旅
2016/7/21~22 静岡県小山町まちづくり専門監 溝口 久

10:08に新八代を出発した「おれんじ食堂」、昼食までにはまだ時間がある。佐敷駅で停車した。乗降のための停車ではない。乗車の時に頂いたグルメクーポン「佐敷名物引換券」を持ってホームの降りると焼き立てカレーパンが待っていた。昼食前に口にすることはためらわれたが、一個400円もするし、焼き立て、ここでいだけないわけにはいかない。香ばしさが鼻を突き、ザックとした歯触りの後には、しっかりとサイコロ大の牛肉が待っていた。地元産「あしきた牛」だ。相当に気合の入ったカレーパンに仕上がっている。

ここでビールといきたいところだが、ドリンクメニューを見ると夏焼酎というものがある。焼酎に夏も冬もあるのか？度数低め12から17度3種類の焼酎が用意されていた。紫芋のフルーティーな香りが楽しめる「田苑」をチョイス、食前一杯とした。つまみは「日奈久ちくわ」だ。

次の停車は水俣駅、この駅舎は水戸岡デザインで内装がリデザインされていた。我が町小山町にある御殿場線の足柄駅を町のコミュニティーセンターと合築で建替えようとする計画が進んでいる。参考になるところは写真を撮りまくった。特にトイレには様々な工夫が凝縮されている。いくつかのディテールはパクらせていただこうかな。

席に戻ると「みなまたスイーツ」セットが置かれていた。

どこの駅もそうだが、列車が動き始めると車窓には、それまでホームでマルシェはじめ出迎えのスタッフが一斉に手を振り見送ってくれる。オレンジ色の軍手をはめた手だね。

水俣駅を後にすると、いよいよスペシャルランチの始まりだ。「鹿児島県産和牛ステーキを堪能できる和洋折衷フルコース」を提供するのは農園レストラン三蔵だ。ウニ入った茶わん蒸し、ぶりとゴーヤのさつま揚げ、しっかりと手の込んだ地元産食材にこだわった料理の数々だ。当初は、食事はすべて電車内のキッチンですることを予定していたが、衛生面で営業許可



を取るのが難しいうえ、自社で作ってしまうと一次加工業者としか地元産業との関係が生まれず、地域の活性化としては弱い。そこで、地元レストランと組み、作ってもらったものをメインの食事として提供することにしたとのこと。

「おれんじ食堂」のプロジェクトリーダー曰く「地域住民や地元産業の活性化があってこそその鉄道事業ということを考えると、地元の資産を生かし、観光を増やしていくしか、双方に再生の道はない。一方で、観光を呼び起こそうとすると、地産地消の食は強力な集客要素となる。そこにしかないオンリーワンのものを考案し、わざわざ行く理由になるものを作ること。その結果、7つの町を知ってもらいながら、満腹になって帰ってもらうという食を付加価値にした観光のストーリーだ。さらに、ビジネス面での「おれんじ食堂」のコンセプトストーリーは、「究極の経済循環列車」だ。」

す、素晴らしい!!「気」の入ったプロジェクトだ。

結果、食で徹底的に乗客を楽しませる戦略は功を奏し、2013年4月~6月に運輸収入は、前年比24~30%アップ。旅行収入は少なくとも2倍になったと言う。

さらに、おれんじ食堂は「究極の癒やしの鉄道」でもある。「列車に乗ると、ぼーっとしながら海を見てビールを飲み、ゆっくり考える時間が出来る。うーん「ななつ星」との共通点を感じずにはられない。お客さんの中にはななつ星は何度応募しても当たらないから「おれんじ食堂」に乗りに来たという方もいるそうだ。そのこと言ったクルーが「ななつ星の3泊4日コースに乗った人と初めてお会いしました。」その後会話が弾み、ななつ星で研修を受けたこともあるとのこと。

阿久根駅に止まった。ここが凄い「にぎわい交流館阿久根駅」平成26年5月にリニューアルオープン。デザインは言わずと知れた水戸岡鋭治氏だ。市の玄関口にふさわしく迎賓館と言ったノリだ。うーん、ここにも建て替えを予定している足柄駅のヒントになるもの満載だ。

再び車中の人となり、残り少なくなってきた車窓の流れる風景をぼーっと見ていると川内の市街地が見えてきた。終着だ。さあ、Jネット47の皆がいる鹿児島中央駅に向かおうと九州新幹線に乗り換えた。ここからが今回の旅の一番の目的がスタートするのだが、すでに満たされた気分になっていた。(おしまい)

